

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター三方原 担当圏域レベル）開催報告書	
1 開催日時	令和 7 年 7 月 16日 （水） 10時00分 ～ 11時30分
2 開催場所	三方原協働センター ホール
3 参加者	37名 協議体委員19名（地域8名、事業所等11名） 関係機関18名（高齢者福祉課1名、長寿支援課2名、長寿保険課（北）1名、コミュニティ担当1名、包括三方原4名、市社協地域支援課1名、市社協浜松地区センター3名、市社協北地区センター2名）
4 協議の内容	「あらためて見つめる地域の課題とは～」
<p>1 開会あいさつ 協議体会長</p> <p>これまで日本の社会、経済を支えてきた団塊の世代（1947年～1949年生）が、全国で806万人、この方達が後期高齢者となり、我々が支援する側になってきます。免許を返納する人も増え、移動支援の必要性が高まっているのではと思われます。</p> <p>以前、移動支援の講習会に参加した時は、1地区社協のみの活動でしたが、現在、5地区の社協が移動支援を実施しています。</p> <p>今後、高齢者が免許返納後の足となるものが欲しい、団塊の世代からの要望も出てくると思います。</p> <p>2 自己紹介</p> <p>名簿順で自己紹介（参加者全員）</p> <p>3 協議内容</p> <p>① 令和6年度 第3回協議体会議の振り返り</p> <p>＊第3回協議体会議開催報告書により説明</p> <p>② 第3回協議体会議以降の地域における活動について</p> <p>＊三方原地区社会福祉協議会「わいわい広場」について</p> <p>報告者：協議体委員</p> <p>●わいわい広場（3事業）</p> <p>1「地域食堂」地元のお寺と協働、対象：子どもからお年寄りまで</p> <p>2「何かするという場ではなく、気軽に立ち寄れる居場所・集いの場」</p> <p>名称／パタティエパタタ</p> <p>3「趣味で集う憩いの場：マーじゃん、歌など」</p>	

●生活支援（稼働支援サービス）の現状について  
生活支援（稼働支援サービス）の需要が増えている。現在、月70回位のペース、今後の件数の増加に備え、受入れの対応などを現在検討中

●ふれあい交流部会の活動について  
地域ふれあい交流会、スマホ講座など

③ 生活支援体制整備事業についてと本圏域の地域事情について

市社協浜松地区センターより説明

\*生活支援体制整備事業について

\*地区別・町別の人口統計、推移、高齢化率など

④ 他圏域協議体の取り組みについて

\*生活支援体制づくり協議体圏域別テーマ内容について（令和6年度）

市社協浜松地区センターより説明

・佐鳴台圏域→見守り支援会議

・板屋、高丘圏域→認知症についての周知／チラシ全戸配布

・ありたま圏域→家事支援サービスの利用状況から見える地域の状況や実態について

・新津圏域→買い物支援サービス（ネットスーパー、移動スーパーなど）についての周知／チラシ全戸配布

⑤ 地域課題についての意見交換

I) グループワーク

4 グループに分かれて行う。

別表：どこでもシートの4コマへご意見を記録

テーマ「あらためて見つめる地域の課題とは～」

【集約内容】

No.	項目	ご意見 (高齢者に関する暮らしの中で、困りごとや、気になること、思っていること、見聞きした事など)
1	買い物,通院,ゴミ出し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠方の家族の通院支援が困難</li> <li>・ゴミ集積所をこまかく設置し、出しやすくしている →空き家がなくなり確保が難しい、個別収集など新しい方法が必要ではないか</li> <li>・車の運転ができなくなった時</li> <li>・体の不自由さが出てしまった時</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民生委員、ドライバー、通院ついでに買い物もいい？ 関係性のある人だから、ついでに頼むことができる、知らないとハードルが高い→実態調査のついでに情報提供→支援へつながるきっかけ</li> <li>・ ゴミ出し遠くて大変（根洗町広い）→近所の人の協力</li> <li>・ 買い物・・・その人の生活が見える＝データではないか？ 歩行できるか、料理できるか</li> <li>・ 認知症により、ごみ出し日がわからず、ごみ出し×</li> <li>・ ヒヤリング（10名位→買い物、通院、足に困る）</li> <li>・ 8:30のゴミ出しは、移動支援を考えないと 早朝料金、需要が多くて対応×</li> <li>・ ヘルパーが前日にごみを出すことを了解してくれた地域（ケース）がある</li> <li>・ 都田は鉄柵のゴミ捨て場、いつでも出せる体制にも 地域によってやり方が違う</li> </ul>
2	居場所,交流 の場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者サービスを使いたくない</li> <li>・ 仲間が参加していると動機につながりやすい</li> <li>・ 認知症の発症、独りの人が地域に出る機会</li> <li>・ 不自由はあっても社会とつながってほしい</li> <li>・ 講座の講師 96歳の方も、役割をもつ大切さ</li> <li>・ 施設の掃除等 役割+雇用 施設・・・ケアマネ等、専門職のいる施設だとよりよい</li> </ul>
3	孤立,見守り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夫婦で生活、高齢者世帯が多く</li> <li>・ 地域との関りが少ない</li> <li>・ 他地区から移住してきた、知り合いがいれば良いが、地域との関りが少ない</li> <li>・ 男性は退職後、地域と関わり始める、誘い合ってサロンへ参加するなど難しい</li> <li>・ どうしたら外出してくれるのか？</li> <li>・ 回覧板→ポストに入れていても（近隣トラブル）</li> <li>・ 本人の支援拒否があるケース</li> <li>・ ゴミ出し依頼者への訪問（見守りになっている）</li> <li>・ 親子間、家族間が上手くいっていない場合 孤立していることがある（隣に住んでいても・・・）</li> <li>・ シニアクラブのメンバーの方がサロン活動して欲しい →例えば、輪投げ、吹き矢、グランドゴルフ</li> <li>・ 回覧板→ポストに入れていても（近隣トラブル）</li> <li>・ 独居、高齢者世帯、日中独居 →介護保険サービスを利用する以外に何ができるか</li> <li>・ 遠方に住む家族からの安否確認依頼が増加している（ケアマネ）</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞がたまっていないかの確認</li> <li>・車の動きの確認</li> <li>・新聞や車による見守り依頼（遠方の子から）</li> <li>・民生委員に見守りを依頼した事例あり</li> <li>・同居していても、又は、すぐ近くに住んでいても、見守りが充実、大丈夫ではない</li> <li>・仕事から帰宅後の対応が困難である</li> <li>・デイサービス終了時間帯での家事負担 →同居しているから安心という訳でもない。同居していない家族でも積極的に見守りを行うケースが多い。一人暮らしや高齢者世帯に手厚い支援が必要</li> </ul>
4	その他など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支える親族が少なくなる</li> <li>・家族の形や考え方の変化、コミュニティも、余白のある支援</li> <li>・どう外出支援するか？</li> <li>・サロンなど最初のとっかかりがない</li> <li>・情報が入ってこない</li> <li>・回覧板を対面しないで、置くなど、関りが薄い</li> <li>・地域資源があることで、本来の家族の支えあい、自立の機会がなくなっているのではないか、解決する力がある、真に必要かどうか、家族の足が遠のく</li> <li>・地区社協の活動内容（情報）を広く住民へ知らせる</li> <li>・良い周知方法→全戸配布のチラシ（手に残るもの）</li> <li>・生活支援：問い合わせ先、個人名、24時間体制 →協力員用スマホ（出られない時は、電源 OFF 対応） →利用者へ名刺で連絡先を伝えている</li> <li>・子ども貧困問題→金銭問題より、ネグレクトの問題を抱えている子どもを募る→子ども食堂を始めても、来てくれるかどうかわからない</li> <li>・介護保険を利用していくためのハードルの高さ 自分から介護保険を使いたいと言ってくれる人は少ない→誰に相談すればいい？</li> <li>・入院時のイレギュラーな事態発生時。一人暮らしの場合、特に家族の協力が不可欠である。ケアマネへ対応を依頼されるケースも散見される。（緊急時の対応）</li> <li>・法律行為（解約）や荷物を届けるとかをせざるを得ないことも・・・（親族なし等）負担増→ケアマネのなり手が減→ケアマネの会合に地域の方に出てもらうのは→情報交換できるとうれしい</li> <li>・成年後見の広がり、ハードルの高さ</li> <li>・元気な高齢者をより元気に</li> </ul>

#### 4 第2回開催日程（案）について

令和7年11月 日（ ）10:00～ 三方原協働センター ホール

事前打合せ；10月 日（ ）10:00～ ケアホーム三方原 地域交流室

\*後日、日程等を調整

#### 5 その他

市社協北地区センターより説明

「地域で健康増進講座」講師：常葉大学 浜松キャンパス 山田英徳 氏

「地域福祉推進セミナー」講師：みま～も代表 澤登久雄 氏

「わかるとできるスマホ講座」

\*三方原中学校から「夏休みチャレンジボランティア」の申込みが70名超ありました。地域で活動されている皆様方の姿を見て、子ども達もボランティアにチャレンジしようと思ったのではないかと思います。

学生達にとってボランティア活動にふれるとても貴重な経験になると思います。

#### 6 閉 会 協議体副会長

#### 5 今後の見通し・ 必要な対応

《今後の課題》

- ・支援体制の充実
- ・地域連携の強化

高齢者を取り巻く家族（家庭）環境の変化などを踏まえ、各地区ごとの現状を把握し、その上で、地域づくりを含めた、生活に支障をきたす（予防的なものも含めた）高齢者の問題について、地区ごとの取り組みを検討していく。